

月例研修会レポ

當麻寺・二上山(雄岳・雌岳)に登る

戸田 博子

12月1日、コロナ感染拡大により、新体制になって4回の月例研修会が中止、今回が今年度初めての例会となり20名が参加しました。



暖かく快晴の中、近鉄当麻寺駅を出発。まずは當麻寺境内で、寺の起源や見どころなど羽尻世話人のお話を聞いていると「春のボタンの季節もまた来たいね」と言う声が聞こえます。



境内を出て当麻池を過ぎると、鳥谷口古墳があります。宮内庁指定の大津皇子の墓は、二上山雄岳頂上にありますが、ここが本当ではないかと言われています。



中井世話人のお話を聞きながら、天武天皇の第3子でありながら、謀反の嫌疑で処刑された大津皇子の悲しい生涯を皆さん想像したでしょう。

古墳を後にしばらく歩くと祐泉寺につきます。これより登山道、小さな水の流れに沿って急な道を登って行きます。着てきた衣服を、皆さんドンドン脱ぎ始めました。

イチヨウなどさまざまな色の落ち葉を踏みしめながら、ひたすら登ること1時間で馬の背に到着しました。ここは雄岳と雌岳の鞍部にあります。行程としては、先に最高峰雄岳(517m)に登り、また鞍部に引き返して雌岳(474m)に



登るので、ここで休んで居たい気持ちになりますが…。そこに中井さんの激が飛

びます。「ここまで来て登らないと後悔しますよ。又来ようの気持ちは捨てましょう」。全員納得、キチンと登りました。

雄岳では大津皇子のお墓をお参りし、鞍部に引き返して雌岳に登頂しました。

雌岳頂上で20人が分散して楽しい昼食です。ここからの展望はすばらしい。東に大和平野、西に河内平野が一望できます。こども園の遠足で30名ほどの園児がいて、それはにぎやか元気、私たちとは違う思い出が作れたでしょう。

雌岳頂上には、太陽の道の標識が設置されています。北緯34度32分の線上に、大和盆地の著名な神社仏閣・遺跡が一行に並んでいます。東は伊勢から、西は海を越えて淡路島まで、東西一直線は太陽崇拝と関係があり、「太陽の道」と呼ばれているそうです。

下山開始。金剛・葛城山に向かって降り、岩屋峠から奈良県側に急坂を下ります。

登って来たときと違って、皆さん黙々と足元を見つめながら歩いて祐泉寺に、一休みしてから當麻寺の中将姫の墓まではにぎやかに下り、雌岳からわずか1時間弱で着きました。

疲れていると思いきや下りはすごく速く、予定通り當麻寺口に帰って来ました。

二上山の靈気が私たちに力をくれ、久し振りのおしゃべり(三密を避けて)がエネルギーになったようです。

「2020年秋、コロナウィルス流行のときに行った二上山は良かったね」と思い起こせる行事だったと思います。

悲劇の弟を偲んで詠んだ姉・大伯(おおくの)皇女の歌を添えておきます。

うつそみの 人なる我や 明日よりは  
二上山を 弟世と我が見む